



ラーチャブルック ราชพฤกษ์

※「ラーチャブルック」はタイを代表する花、ゴールデンシャワーをタイ語で表現したものです。

令和3年度
5月号

<https://www.tjasac.th>
小学部第1職員室
02-314-7334
小学部第2職員室
02-369-2751
小学部第3職員室
02-369-2750
中学部職員室
02-314-7335

日本人学校は、将来のグローバル人材の宝庫

第2小学部教頭 小川 雅弘

初めまして。今年4月に赴任しました小川と申します。よろしく申し上げます。4月6日(火)にタイに入国し、16日(金)までASQホテルで生活、19日(月)からようやく出勤できるようになりました。出勤後、在宅学習が決まり、心待ちにしていた子供たちとの出会いもまだ実現しておらず、少し寂しい感じですが、しかし、Meetでの学習の様子を見せてもらっていると、子供たちの元気の良さや一生懸命さが伝わってきて、とてもうれしい気持ちになっています。学校が再開されて、子供たちと会える日をとても楽しみにしています。

さて、見出しのことについてです。「グローバル人材の育成」という言葉は10年ほど前から盛んに使われるようになったと記憶しています。「グローバル人材」には概ね以下のような3つの要素があると定義されています。①語学力・コミュニケーション能力、②主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感、③異文化に関する理解と日本人としてのアイデンティティ、です。グローバル人材の育成が声高に唱えられるようになり、それによって学習指導要領も大きく様変わりしました。小学校段階での外国語(英語)学習の実施がその一つです。これにより、日本の子供たちの、外国の方と話すことへの抵抗感がかなり少なくなってきたように思います。

他方、日本人学校に目を向けると、ほとんどの日本人学校では、かなり以前から所在国の言語と英語の学習を小学校低学年から進めてきました。また、日ごろから、現地の言語や英語を使う機会の多さ、現地の児童生徒や人々と交流する行事等で、日本にいるよりも圧倒的に語学力・コミュニケーション能力、異文化理解を育む環境にあるといえます。そして異国にありながら日本人としてのアイデンティティを培う環境にもあるといえます。日本人学校で行っている日本の学習スタイルが、日本人としてのアイデンティティの要素となる勤勉さや礼儀正しさの育成に大きく寄与していると考えられます。以前、アブダビ日本人学校に勤務していたことがあります。アブダビ教育庁の担当者が何度か来訪し、子供たちが掃除をする姿、挨拶をする姿、礼儀正しさにとても感心していました。ついには日本の道徳教育についてのレポートを作成してほしいとの依頼もあるほどでした。

このように、日本人学校はグローバル人材を育成する最前線であるといえます。そしてそこに学ぶ児童生徒は、グローバル人材の卵であるといえます。日本人学校で学ぶことができる機会を大いに生かして、未来の日本を担う人材となるよう、グローバル人材としての基礎・基本の力を身に付けてほしいと考えています。本校の教職員はこれからも子供たちの育成に全力で頑張っていきたいと思います。保護者の皆様にもぜひご協力をお願いいたします。